

第79回 学術講演会

インスリン発見 100周年イブセミナー

代表世話人・座長 順天堂大学名誉教授 **河盛 隆造 先生**

開催視聴方法 Web開催(ご視聴方法は最終ページ参照)

配信期間 令和3年3月1日(月)～3月10日(水)

基調講演

「インスリン発見100周年にあたって」

順天堂大学名誉教授

河盛 隆造 先生

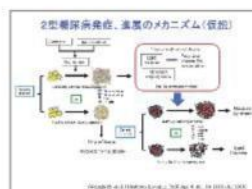


講演Ⅰ.

「糖尿病診療の現状と将来展望」

順天堂大学大学院医学研究科
代謝内分泌内科学 教授

綿田 裕孝 先生

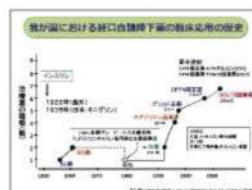


講演Ⅱ.

「経口糖尿病薬の現状と将来展望」

川崎医科大学特任教授

加来 浩平 先生

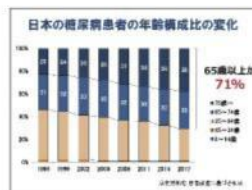


講演Ⅲ.

「高齢者糖尿病診療の現状と将来展望」

東京医科大学糖尿病・代謝・
内分泌内科学分野主任教授

鈴木 亮 先生



総合討論

「新型コロナウイルス感染症存在下における糖尿病診療の現状と対策」

後援 / **愛知県医師会**

基調講演：
「インスリン発見
100周年にあたって」

順天堂大学名誉教授

河盛 隆造 先生



プロフィール

1968年 大阪大学医学部 卒業
1971年～ 1974年
Dept. of Physiology, School of Medicine,
University of Toronto, postdoctoral fellow
1974年～ 大阪大学医学部第一内科 医員、助手、講師を経て
1994年～ 2008年
順天堂大学教授・医学部内科学・代謝内分泌学講座
1994年～ 現在に至る
Prof. Dept. of Physiology, School of Medicine,
University of Toronto.
2008年～ 現在に至る
順天堂大学大学院医学研究科・(文科省事業)
スポーツロジーセンター センター長

受賞：

2002年日本糖尿病学会総会 会長など多くの学会長歴任
日本糖尿病学会ハーグドーン賞、日本糖尿病学会坂口賞、
日本糖尿病合併症学会 Distinguished Investigator Award、
日本体質医学会学会賞、6th Mizuno Award for Sportology
などの学会賞受賞

講演I：
「糖尿病診療の現状と
将来展望」

順天堂大学大学院医学研究科
代謝内分泌内科学 教授

綿田 裕孝 先生



プロフィール

1990年3月 大阪大学医学部卒業
1990年7月～1991年6月 大阪大学医学部付属病院非常勤医員、研修医
1991年7月～1993年6月 桜橋渡辺病院内科、循環器内科、CCU医員
1993年4月～1997年3月 大阪大学大学院医学研究科博士課程 医学博士の学位授与
1996年4月～1998年3月 日本学術振興会特別研究員(DC2)
1997年4月～1997年6月 大阪大学医学部第一内科学研究生
1997年7月～2000年12月 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校、ホルモン研究所研究員
2001年1月～2001年8月 大阪大学大学院病態情報内科学研究生
2001年9月～2006年3月 順天堂大学医学部内科学代謝内分泌学講座 講師
2006年4月～2010年5月 順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学 助教授
(2007年4月～准教授)
2010年6月～ 順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学 教授
2020年4月～ 順天堂大学医学部副医学部長
日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員

併任職：順天堂大学大学院スポーツロジーセンター(私立大学戦略的研
究基盤形成支援事業)センター長補佐
順天堂大学大学院医学研究科先進糖尿病治療学(寄付講座)教授
順天堂大学大学院医学研究科糖尿病治療標的探索講座(寄付講座)教授

学会活動：学会活動：日本糖尿病学会(糖尿病専門医、指導医、常務理
事)、日本内科学会(総合内科専門医、指導医、評議員)、日本
内分泌学会(内分泌代謝科専門医、指導医、評議員)、日本糖
尿病肥満動物学会(理事)、日本体質医学会(理事)等

Editorial Board: Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism
Journal of the Endocrine Society
Journal of Diabetes Investigation

受賞：2009年度 日本内分泌学会研究奨励賞
2009年度 日本糖尿病学会リリー賞
2009年度 日本医師会研究奨励賞
2012年度 日本糖尿病肥満動物学会研究賞

講演II：
「経口糖尿病薬の現状と
将来展望」

川崎医科大学特任教授

加来 浩平 先生



プロフィール

1973年 山口大学医学部卒業
1977年 医学博士(山口大学大学院医学研究科)
1977年 山口大学医学部第3内科助手
1986年 米国ワシントン大学(セントルイス)内科学代謝内分泌部門留学
1990年 山口大学医学部第3内科助教授
1995年 ノボルディスクファーマ(株)取締役開発本部長
1998年 川崎医科大学内科学(糖尿病)講座教授
2002年 川崎医科大学内科学講座主任および附属病院副院長
2013年 川崎医科大学特任教授、川崎医療福祉大学特任教授
現在に至る

学会長：

2010年度 日本糖尿病学会第53回年次学術集会会長(岡山)その他多数

受賞：

1987年 Michael Rehman Memorial Research Award (米国小児糖尿病財団)

2011年 日本糖尿病学会学会賞(ハーグドーン賞)

その他

講演III：
「高齢者糖尿病診療の現状と
将来展望」

東京医科大学糖尿病・代謝・
内分泌内科学分野主任教授

鈴木 亮 先生



プロフィール

1996年3月 東京大学医学部医学科卒業
1996年6月 東京大学医学部附属病院 内科 研修医
1997年6月 社会保険中央総合病院 内科 研修医
1998年6月 東京女子医科大学糖尿病センター 研究生
1999年6月 東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 医局員
2002年3月 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻 博士課程修了(医学博士)
2004年10月 東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 助手
2005年10月 Harvard Medical School, Joslin Diabetes Center 博士研究員(C. Ronald Kahn教授)
2010年10月 東京大学システム疾患生命科学による先端医療技術開発拠点 特任助教
2011年4月 東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科 特任講師(病院)
2012年4月 同 特任講師
2014年5月 同 講師
2018年6月 東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌・リウマチ・膠原病内科学分野 准教授
2019年7月 同 教授
2020年4月 東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学分野 主任教授
現在に至る

所属学会：

日本糖尿病学会(学術評議員、事務局長代行)、日本内分泌学会(評議員)、
日本内科学会(評議員)、日本成人病(生活習慣病)学会(理事、評議員)、
日本病態栄養学会(評議員)、日本肥満学会、日本糖尿病合併症学会、日本
糖尿病・肥満動物学会、日本抗加齢医学会、American Diabetes Association

「インスリン発見100周年にあたって」

順天堂大学名誉教授

河盛 隆造

インスリン発見の地、トロント大学は「インスリン発見100周年シンポジウム」を2021年4月に開催する。私ども準備委員会は、数年前から「2021年に糖尿病はどうなっているか？」討論を始めた。演者は、「1型糖尿病はiPS細胞などの再生医療の進歩で、治癒する病気になっているべきだ」と述べた。他のメンバーは、「インスリン製剤の進歩で、1型糖尿病患者の予後も良好になっているよ」と強調したが、演者は「未だにインスリン療法は非生理的だ！ だって皮下投与では、健常人の“糖のながれ”を再現できないのだから」と主張した。

一方、2型糖尿病患者に対しても、未だにインスリンは“magic drug! miracle drug!”であることは間違いない。紹介されて受診してきた高血糖例に対して、「躊躇なく外来診療で緻密なインスリン療法を開始し、速やかに正常血糖応答に維持し、内因性インスリン分泌を回復させ、インスリン療法から離脱させること」が、普及してきた。しかし、本邦でインスリン療法を受けている2型糖尿病患者130万人の中で、HbA1cが7%未満になっている例は20%未満に過ぎず、「インスリンが“敗戦処理手段”になっ

てしまっている」と言わざるをえない。

近年の糖尿病臨床研究は、詳細な細胞レベルでの研究と相まって、単にインスリンの作用不足のみならず、グルカゴン分泌異常の制御に関心を向ける必要性を浮き彫りにした。例えば、食後高血糖を放置していることが内因性インスリン分泌を低下させ続け、グルカゴンの暴走を引き起こしていることなどである。

軽度であれ食後高血糖を放置することなく、速やかに発症前の状況に戻す努力をすべきであり、現実それが可能となってきたことも理解したい。

次々と開発された経口剤を巧みに活用して、肝に流入するブドウ糖・インスリン・グルカゴンのカクテルの比率をできるだけ健常人に近似させ、食後血糖応答すら良好に維持していきたい。さらに、併用する薬剤それぞれが、パートナーの効果を高め合って、助っ人同士となり、結果的に血糖応答の改善や、心血管イベント抑制効果を発揮していることも判明してきた。

進歩した薬物療法を速やかに実行して、血糖応答を良くすることで、内因性インスリン分泌を保持し、それを最大限活用し、健常人の“糖のながれ”を再現してあげるように、緻密な診療をおこないたい。

本講演会では、糖尿病の病態解明、経口糖尿病薬、高齢者糖尿病診療の現状と将来展望に関して、三人の先生方にご講演をいただき、理解を深めていきたい。